

## 福岡県鞍手郡の金石文集成 一 (鞍手町、小竹町篇)

中村修身

### はじめに

福岡県内の金石文集成を行っている。今回は旧鞍手郡の金石文集成を行おうとした。まず、鞍手町、小竹町の金石文から報告を行い、引き続き直方市、宮若市の金石文報告の準備を進めることとした。なお、木屋瀬、野母、笹田については八幡西区の中で報告済みである。

集成する金石文は原則として江戸時代末までとした。集成にあたっては、原物を確認する事が第一であるが、調査段階で、原物が消失しているもの、風化が進み読めなくなった資料のいくつかは鞍手町歴史民俗博物館に保管されている高崎末男氏が収集した資料を参照させていただいた。

高崎末男氏資料は、鞍手町在住の高崎末男氏が現地に赴き原物を確認して集めた大変貴重な資料であり、道祖神、石祠資料が多数集成されており、その方面での研究にも参考になる。

資料の紹介にあたっては、物件ごとに、銘文の書かれている物件、その現所在地、銘の書かれている部分そして銘文の順に記し、各物件の紹介の後にそれぞれに対する雑記を加えた物件もある。

多くの資料で判読に難渋したが、今後の歴史研究の一助となればと思いい、史学論叢に発表する場の提供をお願いし、ここに発表するものである。いつも発表の場を御提供いただいた別府大学史学関係の諸先生、いろいろと情報を提供いただいた鞍手町教育委員会、鞍手町歴史民俗博物

館のみなさん、および貴重な御物や文化財を快く触れさせていただいた関係者の方々に深く感謝の意を表したい。

### 鞍手町の篇

1 長谷谷寺梵鐘 鞍手町長谷五五五(亀甲山) 長谷寺旧蔵

謹奉寄進 撞鐘一本 大日本國西海道筑前國鞍手郡新北村龜甲山長谷寺

御寶前 大願主粥田庄八尋郷住人藤原朝臣家信 大藏女源榮 右奉掛洪

鐘意趣者 天長地久 所願成就 庄内安隱 當寺繁昌 上下萬民 富貴

自在 殊者信心大願主癸酉名 息災延命 壽命長遠 子孫繁昌 從類眷

屬 □事無難 一切所求 皆悉成就 故也 于時延徳三年辛亥林鐘三日

大工貞盛 小工各々

雑記 原物は、福岡市博多区聖福寺にありと伝えられるが、確認できなかったため、銘は『太宰官内志』によった。

2 相譽蓮頌釋建門・根譽良意信士墓 鞍手町新延墓地

右面



正面

寛永元卯天三月廿七日

相譽蓮頌釋建門  
根譽良意信士

寛永元□天九月十日



左面

4 三世譽□生大偉墓 鞍手町長谷山五五五 長谷寺

寛文四天

當寺三世譽□生大偉

五月十一日

目儀

雜記 『西川村誌』に「新延腰山城主野中勘解由の墓と称する墓石新延

劍神社の東一町位の田圃中の小藪にある墓石(中略)年代を経て読み難

し一面には野中勘解由の室の墓也という」との記載が当墓地に当たる。

いくつかの事の検討を要する。

3 相譽蓮頌釋建門・根譽良意信士墓 鞍手町新延墓地

右面



正面

寛永八□天二十八日

衣譽□□妙院殿

厚譽妙禪定尼

□□三□天卯月五日



左面

5 奉拜念申神尊天 鞍手町小牧一四二四 種善寺

善六

元禄五年

木寄 □八

奉拜念申神尊天

□六 □□

次 □□ □□

十一月十五日

甚 □□ □□

□□ 茂 □□

雜記 庚申様が寺に移設されている。神仏習合の名残である。

6 灯塔残片 鞍手町古門一二三七 古物神社

元禄十三年

奉寄進 □□子中

六月吉日

7 幸神尊天 鞍手町中山一五八八 八劍神社

元禄十一年 中山村住人

謹請 幸神 尊天

六月十七日 小長光久□

雜記 2の雜記を参照されたい。

雑記 八劍神社に六基の道祖神が合祀されている。その内の一基である。

8 幸神安鎮給 鞍手町中山一五八八 八劍神社

元禄十四天

謹請 幸神 安鎮給

四月三日

雑記 八劍神社に六基の道祖神が合祀されている。その内の一基である。

9 石階段 鞍手町古門一二七三(西山) 圓覚寺

右側上柱正面

元禄十四年

左面

十一月吉日

左側上柱右面

寄進當村

正面

荒牧忠良

10 水盤 鞍手町八尋四八九 十六神社

寶永六年三月上旬

手水石一基

郡司嶋幸藏種

獻焉

11 劍大明神鳥居 鞍手町木月一三四九 劍神社  
右柱

中埜源七宗貞  
神門一口謹創立焉木月邑  
中埜源二郎宗義

正面額

劍大明神

左柱

享保二年丁酉仲春吉旦 祠官藤井大學信之

12 庚申青面金剛神 鞍手町大字古門字掛津 公民館裏

享保三戌戌天

庚申青面金剛神

姑洗中日

13 庚申尊守 鞍手町古門一二三七 古物神社

享保五年

謹請庚申尊守

四月吉日 西山

雑記 里人によると、明治十三年に春日原より移設した。

14 庚申尊天 鞍手町永谷 旧国道真教寺墓地入口

享保六辛丑天

庚申尊天

七月朔日

雑記 神仏習合である。

15 奉拜庚申尊天 鞍手町木月一三四九 劍神社

□□享保十年

奉拜庚申尊天

16 三味線墓 鞍手町猪倉字石橋 墓地

本体正面

釋淨心信士墓

左面

西流

鶴澤 藤邨彌藏信常

裏面

信士姓藤邨氏名信常字弥藏鞍手郡小「牧今村人其先豊後之士也有故来本州」而世業農作頗名富豪矣及中家慚哀「至其父遂徒居猪倉村因外家以自便信「士幼而不治生產而獨嗜三弦於其曲無「不窮究焉其技之所至蓋入微妙矣是以「来學者三百有餘人其名延及鄰國云」

上段台石右面

笹栗 甚次様「木屋瀬 助三様「直方 六右エ門様「廣田 三右エ門様

「北多 □太エ門様「上須恵 友太様「網分 再休様「底井野 文吉様

「同 狼全様「上須恵 狼粕様「伊岐須利左エ門様「勢田 □栄様

〔十二行。「は改行頭。」〕

正面

厚情御連中〔横書き〕

左面

綱分 □十郎様「高田 四郎右エ門様「下須恵 正藤様「佐与 文四郎様「片島 九藏様「上三緒 惣□様「同 文二□様「笹栗 □□様「飯塚 養元様「木屋瀬 貞右エ門様「大隈町 長助様「勢田 養碩様「綱分 仁次郎様「原口 兵七郎様

裏面

有井弥六様「直方元吉様「中山茂平様

中段台石右面

伊岐須 利左右エ門内「同 又次「同 吉三郎「同 九右エ門

「片島 作十郎「同 吉三「同 傳吉「同 市右エ門「同 惣吉

「同 七左右エ門「飯塚 儀藏「穂波郡「同 □□「同 儀作

「同□□右エ門「大隈町 平四郎「同 茂助「□□□□□「勢田 □□

〔十九行。「は改行頭。」〕

正面

同 七右エ門「同 六右エ門「立岩 如元「上三緒 甚助「綱分

直平「嘉广郡

門人

施主

連名

鞍手郡「上木月 曾平「同 伊七「同 善藏「同 碩山「同

彦五郎「木月 甚十郎

左面

下大隈 傳七「新延 藤右エ門「同 本右エ門「同 利右エ門「小牧

伊八「家業門人「新延 宅右エ門「上須恵 鹿尾「川島 左藏「中間

伊兵「立岩 木治「木月 九平「同連中「高田昶吉「同連中「久原 周

榮「廣田 米助」「植木 田吉」〔十八行。「は改行頭。」〕

裏面

下須恵連中「同 慶七」「同 平二郎」「同 治平」「同 藤次郎」「同 嘉助」「同 熊次郎」「同 養全母」「上須恵 兵二郎」「同

十吉」「同 兵吉」「同 忠次郎」「同次六」「同 甚七」「同 次八

「笹栗 貞治」「糟屋郡」「同 善三郎」「五万石猪鹿忠右エ門」「同彦四郎

〔二十行。「は改行頭。」〕

下段合石正面右寄り

八尋 清五郎「同 次平」「同 作八」「新北 綿屋清吉」「中山 源七

「同 儀七」「高野 元立」〔七行。「は改行頭。」〕

下段合石正面左寄り

小伏安藤郎「脇田 弥八」「同 吉政」「湯原 久七」「金丸 清右エ門

「同 正六」「同 榮八」「下有木」「右エ門」〔八行。「は改行頭。」〕

左面

上有木 兵藏「同 源次」「上底井野 伊平」「同 弥平」「同 利平

治「同 佐平」「同 正平」「中村 順右エ門」「同 貞〇」「尾崎甚

平「同 久右エ門」「同 宗吉」「鬼津 藤吉」「菅屋甚四郎」「山鹿清十

「廣渡善三郎」「同 善八」「頃末 清郎」「同 幸右エ門」「同 又右

エ門」「同 平三郎」「同 清八」〔二十二行。「は改行頭。」〕

裏面

同 文助「仲間 曾平」「同 新三」「嘉麻「立岩 六右エ門」「鞍手

「直方 与八郎」「小竹〇栄」「同 兵太郎」「同 清九郎」「同 〇〇

郎」「同 長助」「同 徳〇〇」「豊前「香春 嘉助」「同 又平」「同

五右エ門」〔十七行。「は改行頭。」〕

〔十七行。「は改行頭。」〕

雑記 藤邨彌藏信常の没年は享保三年説を取った。

17 水盤 鞍手町室木一二〇七 六嶽神社

正面

盥盤

左面

村内若者〇

裏面

享保六<sup>丑</sup>年

右面

四月十九日

18 八劍神社鳥居 鞍手町中山一五八八 八劍神社

右柱

享保九年次庚申 篠原喜兵衛重治

奉納 福岡市 篠原郁夫

正面額

八劍神社

左柱

八月十九日 篠原甚兵衛重光

平成元年十月吉日 再建 宮司 田部善美

雑記 再建鳥居は金銅であろうか金属製である。

〔十七行。「は改行頭。」〕

19 長谷寺梵鐘 鞍手町長谷五五五(亀甲山) 長谷寺

一区画

生滅滅寂滅為樂

二区画

筑前国鞍手郡長谷邑亀甲山長谷寺者

觀音薩埵之靈利也仁和元年萬貨上人

開山安置行基菩薩作十一面大悲之靈

像應仁亂後荒廢明曆中殘雪大德中興

而修淨業寺主演譽勵志募財元祿十四

年使博多鑄師渡辺久左衛門成就洪鐘

一口然其梵音不久而破近郷民家愁之

爰中興財譽和道与施主一心而再興新

鐘備寶前矣

享保十六<sup>亥</sup> 辛 年正月十八日

〔一行空白〕

冶工小倉住川野治郎右衛門

願主亀甲山長谷寺再中興三世財辨往和道

施主上新入邑大庄屋

當邑庄屋 香田助太郎

他 福原孫九郎

三区画

南無觀世音菩薩

四区画

右享保在銘之梵鐘昭和十六年當太平

洋戰役應召供出鐘聲不聞已二十年茲

同愛人士相議繼承祖先芳志再興

梵鐘永傳後世以祈郷中安穩者也

昭和三十六年三月吉日

鞍手郡長谷邑福原孫九郎末裔

寄進者

学校法人福原学園設立者福原軍造

他 親族一同

五区画

諸行無常是生滅法

雜記 銘はすべて陽刻。当梵鐘は昭和三十六年の鑄造であるが、享保

十六年時銘が再録されている。

20 灯燈殘片 鞍手町古門一二三七 古物神社

享保二十年

願大明神 祈願 古門村中 成就

21 幸神 鞍手町新北 入生口(長谷川)

右面

寛保二年

正面

四郎八

吾平次

幸神

吉太郎  
徳平

□ □  
□ □

左面

四月吉日

22 庚申天祠 鞍手町八尋末森組 道端

右面

寛保二壬  
戌天

正面

庚申天祠

左面

九月十七日

台石正面

善二郎「善三治」「新平」「清五良」「保三良」「正作」「太吉」「□七」「平茂」「文  
藏」〔十行。〕は改行頭。〕

雑記 稲葉三叉路の不整形な四角の塚の上に立っている。

23 水盤 鞍手町八尋末森組 観音堂

右面

善六「□五郎」「兵八」「新平

正面

〔四行。〕は改行頭。〕

寛保二戌年

奉寄進

九月十八日

左面

□七「爲三郎」「兵作」「弥次平

〔四行。〕は改行頭。〕

24 喚鐘 鞍手町新北一〇六一 明福寺

新北邑助□一家

善藏 清一 兵工衛

作識 七次郎 幸次郎

喜次郎 市助 俊郎

常吉 幸助 善作

忠吉 兵作 喜四郎

治郎助 弥七 惣吉

惣門徒中

宗像郡西郷邑□三郎

鞍手郡新延邑左三衛門

筑前國鞍手郡新北邑

明福寺第七世

願主 現住了観

隠居了誌

延享三丙寅年

十一月中旬

冶工小倉住吉村伊右衛門安次

頭部

佛教婦人「个主無力衣」「个十□リニ再ビ」「時へ還ル事」「ノメノリ」「ハノ

丁同木ノ「□ハ□□ノ人」戦争走り□「屬欠之多メ昭」和十七年十月□  
「鐘ハ国家」献納ナル「事ノナ□リ」但当時「新北消防」団警鐘「祖□  
タメ」当鐘ヲ代納「シメカ此ノ」鐘ノ使用□「サタノ□昭和」二十四年  
五月レ「当住職」十三世唯雄「代明福寺」(二十五行。「は改行頭。')  
雑記 喚鐘頭部は昭和二十四年五月の追銘である。当館鐘は豊前小倉鑄  
物師の作品である。

25 喚鐘 鞍手町八尋五八二 圓宗寺

奉寄進

筑前國

鞍手郡倉久村

願主

古野治右衛門

爲現當二吉

安樂施主

近在男女

寛延元戊辰年

九月日

同郡八尋村

圓宗寺什物

十二百香譽代

鼎工

山鹿治兵衛

藤原兼長

雑記 山鹿治兵衛、藤原兼長は江戸期になって筑前若屋から筑前博多に  
移住した鑄物師である。

26 水盤 鞍手町古門一二三七 古物神社  
宝曆三年

祈願

甲手水石

成就

十一月吉日

氏子中

27 石階段 鞍手町古門掛津 観音院

右側上段柱正面

宝曆四年 筒井市作

寄進

雑記 残り三本の欄干石は改築されている。

28 六嶽宮鳥居 鞍手町室木二〇七 六嶽神社

右柱

奉剋立鳥居一門鞍手縣室木村産子

正面額

六嶽宮

左柱

〔銘全文陽刻〕

神主安藤加賀守定直拜誌

寶曆九<sup>巳</sup>卯年歲次孟春吉辰

雑記 江戸時代行政区画に縣は使われない。宗教的背景によるものであろう。

29 灯燈(二対) 鞍手町新延一九九八 劍神社

右側正面

左側正面

新延村

奉寄進

左面

左面

奉寄進

十一月十六日

裏面

裏面

永谷村

寶曆九巳卯天

30 四国霊場巡り記念碑 鞍手町木月 観音堂

右面

宝曆十三年□六月十七日

正面

四國三十三処須祀□□□

31 水盤 鞍手町八尋 観音堂

右面

明和二歳

巳二月

正面

獻

左面

須藤太助

32 南無妙法蓮華經 鞍手町八尋 観音堂

右面

明和三歳 再建須藤□□

丙戌十一月吉日 貢

正面

南無妙法蓮華經

左面

天下泰平

國土安穩

雑記 横に当碑と関連する南無妙法蓮華經當山開祖須藤コトの碑があり、昭和十三年十二月十日、須藤貢・須藤タカ建之と彫っている。

33 西川大橋記念碑 鞍手町小牧 鞍手町歴史民俗資料館蔵

西河大梁惟明和四丁亥歳造也蓋取

石於長谷山焉文政八乙酉歳因改梁

乞其石柱而作盃聊表日新之意

雑記 当碑は木月橋の袂に在ったものを鞍手町歴史民俗資料館に持ち込んだと伝えられている。西川大橋は今日の木月橋のことで木月大橋の北に架かっている。34を参照。

34 西川大橋石柱 鞍手町木月一七七一 阿部氏蔵  
明和四丁亥歳二月改圮橋為石梁文政

八巳酉年三月再造其端以石其中用材架焉  
雜記 以前は故入江新吉氏邸に在ったが、昭和三十年代に故阿部赫次氏邸に移され現在に至る。西川に架かっていた木月橋記念碑である。西川大橋は今日の木月橋のことで木月大橋の北に架かっている。33を参照。

35 猿田彦命 鞍手町木月一三四九 劍神社

明和五戊子年  
猿田彦命  
□□□□

36 水盤 鞍手町木月一三四九 劍神社

右面

明和八辛卯歳

正面

奉寄進

左面

二月吉日

裏面

新延邑

本姓安本木月□□□

水森惣四郎

37 一字一石塔 鞍手町長谷五五五(亀甲山) 長谷寺  
正面

大乘妙典一部一字一石  
裏面  
安永二<sup>癸</sup>巳六月十一日  
爲父母菩提願主知渡都

雜記 台石は昭和五十五年の修理の際取り替えられている。

38 灯燈 鞍手町上木月 貴船神社

安永二年

奉寄進

癸巳九月吉日

39 地藏像 鞍手町古門神崎 観音堂

台石正面

安永三年天

施主 亦七

村中

八月吉日

40 八劍神社鳥居 鞍手町中山一五八八 八劍神社

右柱

安永六歳次丁酉孟夏穀日

正面額

〔無銘〕

左柱

大保正

香月勘吉則明建之

雑記 八劍神社裏参道の鳥居である。

41 水盤 鞍手町長谷 八幡神社

安永八<sup>巳</sup>亥<sup>歳</sup>

〔二行分空白〕

願主

菊竹智渡都

42 石祠 鞍手町新北 熊野神社

左面

友八

富市

長江中 藤八

大七

浪吉

裏面

天明元年八月

雑記 高崎末男氏資料を参考にした。

43 猿田彦大神 鞍手町新延新塚 旧国道端

本体右面

台石右面

天明二年

石工

山本小右衛門

正面

正面

猿田彦大神

奉寄進

左面

寅七月五日

44 南無妙法蓮華經塔 鞍手町室木上畑城(本城越) 越 観音堂

本体右面

天明三癸卯歳七月日

正面

南無妙法蓮華經 妙經一字  
一石之塔

左面

五穀成就 牛馬安全

裏面

顯壽山現住日榮

台石正面

施主

糺屋弥市良

口屋甚兵衛

錢屋勘兵衛

長府屋宗市

雑記 観音堂は旧道の横に在り。

45 大乘妙典一字一石塚 鞍手町小牧今村 虚空蔵菩薩堂

本体正面

天明六年<sup>丙</sup> 午 八月

大乘妙典一字一石塚

天台沙門慈澄敬白

台石右面

今村中

雑記 本体は巻物の形をしている。

46 灯燈 鞍手町新北三一五 音丸天満宮

右面

天明七年

丁 未 三月吉且

正面

天満宮

左面

願主

入江又吉

47 地藏像 鞍手町古門掛津 観音院

台石正面

天明八<sup>戊</sup> 申

建立

正月吉日

左面

的埜伊右門

筒井善作

施主 同 用作

柴田善市

尾久保藤助

48 貴船神社鳥居 鞍手町上木月 貴船神社

右柱

當村 若者中

正面額

貴布祢社

左柱

天明八<sup>戊</sup> 申 二月吉良日

49 石祠 鞍手町古門二二三(神崎) 神崎神社

右面

天明八天

遠藤茂八

二月十五日

左面

宝曆四天

奉口興

十一月吉日

雑記 年号が二つある。宝暦四年十一月吉日は再建日時である。土製恵比須様が多数奉納されている。

50 灯燈破片 鞍手町上木月 地藏堂

寛政貳戌九月吉日

吉留邑

伊豆平右衛門

雑記 吉留邑は宗像郡吉留村のこと。

51 三界萬霊供養塔 鞍手町古門一二七三(西山) 圓覚寺

右面

寛政六年

正面

古宝山九世本誓

三界萬霊供養塔

施主梶栗又次良

姉

左面

甲寅二月日

52 庚申尊天 鞍手町木月一三四九 劍神社  
本体右面

寛政十三酉四月吉日

正面

庚申尊天

台石正面

藤右門「弘甲」「弥平」「勘口」「口作」「久吉

左面

久口口「秋口」「兵口」「小介

〔六行。〕改行頭。〕  
〔四行。〕改行頭。〕

53 水盤 鞍手町小牧一三二〇 八劍神社

本体正面

台石正面

如瓜

石工

儀化

改作

毘瓜

享和元年

奉寄進

酉口秋吉日

金吉

戌吉

本七

54 水盤 鞍手町小牧一三二〇 八劍神社

享和元年辛

四月下旬

盥盤

當村

55 灯燈(二対) 鞍手町小牧二三一〇 八劍神社

右側右面

正月吉日

正面

文化五

左面

小林治作

左側右面

戊辰年

正面

文化五

左面

願主治作

書

56 石祠(八雷神社) 鞍手町新北 熱田神社

裏面

奉再興石殿一字

文化五龍次戊辰八月穀旦

57 奉納大乘妙典經日本廻國碑 鞍手町室木(下組) 墓地

右面

文化七庚歲

二月吉祥日

正面

日月天下太平

奉納大乘妙典經日本廻國

清明 国家安全

左面

六十六部行者 加賀國能美郡  
永村次平立之

58 庚申尊天 鞍手町永谷 一字一石堂

文化九龍舍壬申年

庚申尊天

59 灯塔 鞍手町八尋北浦 山祇神社

右面

文化九壬申

八月吉日

正面

奉寄進

左面

高山一右門

須藤口市

60 天満宮鳥居 鞍手町新北三二五 音丸天満宮

右柱

自文化辰春促神門再建儀

森 茂作

若 森 仁平

大宮司金川政文嫡子正英 願主

渡邊新作

者 原 □□□

坂田李兵衛

同庄右衛門

吉田喜平

石田源八

金河初七良

石田市右衛門

入江亦平

森治郎七

篠原甚助

森七口助

吉田百松

諫武九六

同 仁助

岩谷清吉

篠原孫七

石工 山本七右衛門

岩文化十龍次癸酉十月穀旦 願主

者

森 大藏

吉田七右衛門

飯野半右衛門

諫武長助

□井龜七良

森 恵平

富士原正八

坂田利右衛門

篠原喜八

音丸松太郎

飯野庄作

井上六市

篠原藤吉

入江藤治良

金川金右衛門

篠原作次

松尾利六

櫻井安平

61 喚鐘 鞍手町小牧一四二四 種善寺

一区画

筑前國鞍手郡小牧村

種善寺什物

財誉和尚代

施主古野源三郎

正面額  
天満宮  
左柱

若 坂田喜六良

宝永五戊子年

文化十申年再建

二区画

爲動誉感月浄喜居士

古野藤八郎

同 佐助

掛持遠賀郡二嶋村

徳雲寺聞誉代

62 白衣大慈観世音菩薩 鞍手町中山 圓清寺の観音堂

背面軸木正面

白衣大慈観世音菩薩尔時文化十一甲辰三月吉祥日

裏面

東奥曾陽産鈴木親忠入道諦俊也

雑記 銘は墨書である。

63 境石 鞍手町長谷 八幡神社

正面

文化十一年

右面

福原幸工門「田代六千十」小原口市

〔三行。「は改行頭。」〕

雑記 土地の境界石か。八幡神社境内に転んでいる。

64 灯燈(二対) 鞍手町長谷 八幡神社

右側柱正面

奉寄進

右側台石正面

若

西野國一

田代藏七

田代茂作

上田万吉

田代十八

左面

文化十二年

亥八月吉日

左側柱右面

文化十二年

亥八月吉日

正面

奉寄進

65 地藏像 鞍手町八尋(里村) 圓宗寺

上台石正面

八拾八番

文化十二稔

八拾八所靈場

十二月吉日

□□番

下台石

〔三面に十数人の名が彫られているが現状では読めず〕

66 灯燈（二対） 鞍手町新延一九九八 劍神社

右側右面

左面

式日燈

式日燈

正面

左側正面

文化十三年

丁丑九月祭日

左面

式日燈

裏面

裏面

丙子九月祭日

文化十四年

67 道標（興玉神） 鞍手町新北土井手 三叉路道端

右面

文化十五年

坂田善成

正面

興玉神

左面

わかみや道

68 興玉神 鞍手町新延本村 道端

本体正面

興玉神

台石正面

文政二「己卯」四月祭日

〔三行。「は改行頭。」〕

69 水盤 鞍手町猪倉四九一 貴船神社

文政五年

壬午

首夏

若者中

70 灯燈（二対） 鞍手町新延一九九八 劍神社

右側右面

左側右面

文政七<sup>甲</sup>年

文政九〇□

正面

正面

獻燈

奉獻

左面

左面

四月吉日

戊<sup>寅</sup>九月吉日

裏面

裏面

入江勸助

久保田□□

田中平三郎

雑記 左右の燈で年号が違う。

71 磬 鞍手町古門一二七三（西山） 圓覚寺

打磬一口成道寺十世法誉大成和尚寄附于時文政末年十一月下旬筑前鞍手

郡古門村古宝山円覚寺當什物十二主形誉代

雑記 原物の確認ができなかったので、銘は『特別展鞍手の仏たち』を採った。

72 鰐口 鞍手町中山 不動院

文政七甲申十月三日

寄

進

□□時戌寅三府

雑記 銘の「□□時戌寅三府」は識者の教えを乞う。

73 地藏菩薩像 鞍手町中山 六ヶ嶽四国第二十五番

台石右面

□田清□「辻ノ藏甚□」添田與平「田代源助」栗田新平「同木明坊」同

徳助

〔七行。「は改行頭。」〕

正面

文政八年

六十四番

施主

左面

栗田善平「同又右エ門」同 甚吉「同 原右エ門」同 喜八「田代國平」  
□□村占利  
〔七行。「は改行頭。」〕

74 三界萬靈 鞍手町中山一四〇四 圓清寺  
右面  
爲

速往西岸居士

秋月妙智大姉

菩提

正面

三 萬靈

界

左面

文政十亥龍集

丁八月

當山

十三 押譽上人代

裏面

施主栗田平藏宗定

造立

75 御潮井台 鞍手町八尋 十六神社  
右面

諸病全快〔左二行の上に横書き〕

文政十稔

亥卯冬吉日

正面

天下泰平〔左二行の上に横書き〕

八尋村醫師

加藤元的

左面

国家安全〔横書き〕

裏面

五穀成就〔横書き〕

大宮司

田部伊豆守藤原朝臣善満

正面額

祇園宮〔セメントで塗潰している〕

左柱

古鳥居者享和辛酉六月前保正安増伊八善則募□村而創建之文政  
辰子歳秋分天保甲午十一月村長埜大右衛門宗賢継業再建

76 古江道標 鞍手町八尋一三三七一 許斐正氏宅

東面

奉祈国家安全五穀豊登 東 木やのせ道

南面

南

八尋村白山宮

室木村六嶽宮

西面

八尋村加藤元的重治

北面

文政十三年庚寅十二月吉辰 北 阿かま道

雑記 原位置は現在地から約七メートルの中往還横に立っていた。

77 祇園宮鳥居 鞍手町小牧一三二〇 劍神社

右柱

奉再建神門一基 小牧村中

從五位下

78 磬 鞍手町古門一二七三(西山) 圓覚寺

打磬一口成道寺十世法譽大成和尚寄附于時文政末年十一月下旬筑前鞍手  
郡古門村古宝山円覚寺常什物十二主形譽代

雑記 原物の確認ができなかったため、銘は一九八九年発刊「鞍手のほ  
とけたち」による。

79 熱田宮鳥居 鞍手町新北 熱田神社

右柱

奉再建石神門壹基

願主

新北長谷産徒中

正面額

熱田宮

左柱

宮司從五位下

金川睦奥守藤原朝臣政明

天保三<sup>壬</sup> 辰 九良辰 □□

□□□□□□□□

政水

阪田庄藏貞直

80 石祠 鞍手町八尋稲葉 稲葉神社

右面

天保四<sup>乙</sup>五月

左面

稲葉中

雑記 干支が違う。

81 炉 鞍手町古門西山一二七三(西山) 圓覚寺

天保七年「筑前国「鞍手郡「古門村「円覚寺「静譽代

〔六行。「は改行頭。」〕

雑記 原物の確認ができなかったので、銘は一九八九年発刊『鞍手のほとけたち』による。

82 石祠 鞍手町古門 古門公民館裏

右面

添田正五良

立之

左面

天保九戊戌四月吉日

83 狛犬(一对) 鞍手郡八尋二一〇七 十六神社

左側右面

八月吉辰

右側正面

獻

左面

天保九戊

戌年

裏面

黒田四郎五郎家臣

□ 姓 加藤

□ 瀬 嘉右工門

福丸村 知貞

□ 姓 加藤

□ 永 惣右工門

篤福

正面

獻

左面

川津村石工

深見兵次

明治

裏面

當村醫師

加藤元的

繁治

〔二行剥落〕

加藤□民

命蔵

84 狛犬(一对) 鞍手町小牧二二三〇(宮首) 劍神社

左側右面

大宮司中山村

田部伊豆守□右衛門

石工川津村

深見兵次明次

正面

獻

左面

天保九戊戌年霜月

願主 安増善五郎善章  
古野仁平太房盛

85 鳥取幸神 鞍手町新北田頭 道端 (旧田頭バス停横)  
右面

天保十二〇五月

正面

鳥取幸神

左面

□□

五十四歳 女

雑記 鳥取は「とつたり」と詠む。道祖神である。高速道路建設に伴い  
現位置に移設。

86 狛犬 (一対) 鞍手町新北 熱田神社  
右側右面 左側右面

天保十二辛丑吉辰

正面

式日燈

左面

坂田喜太郎貞継

坂田喜太郎貞継

正面

式日燈

左面

天保十二辛丑吉辰

87 狛犬 (一対) 鞍手町新北 熱田神社  
右側右面

大宮司従五位下

金川睦奥守藤原朝政明

正面

獻

左面

弘化二乙 己季秋

裏面

國枝右エ門「坂田庄五良」「篠原貞次良」「石田作右エ門」「諫武幸平」「渡邊

唯八」「森傳右エ門」  
〔七行。〔は改行頭。〕

左側右面

伊勢講連中

正面

獻

左面

工師 宮田村

勝木藤太良

〔空白〕

岩河内貞助

裏面

木村善五良「篠原勘八」「森 治助」「篠田新次良」「石田儀七」「福永孫右エ

門」「吉田與右エ門」「坂田善太良」  
〔八行。〔は改行頭。〕

88 狛犬(一对) 鞍手町新北入生 熊野神社

右側正面

獻

左面

弘化二乙巳歳

願主伊勢講中

裏面

渡邊唯八「石田儀七」森 治助「諫武幸平」坂田庄吾良「福永孫右エ

門「森善五良」〔七行。〕は改行頭。〕

右面

岩河内貞助

工師宮田村

兼子武平

左側右面

季秋大祭日

正面

獻

左面

大宮司従五位下

金川陸奥守政明

裏面

森傳右エ門「篠原勘八」坂田喜太良「篠原貞次郎」篠田新次良「吉田興

右エ門「石田作右エ門」國枝助右エ門 〔八行。〕は改行頭。〕

89 加藤元的墓 鞍手町八尋 竜泉墓地

弘化三丙午年

正行院觀口音元的居士

正月二十日 加藤晚粹之建 没五十二才

雜記 圓宗寺住職によると、当墓は平成二十八年頃墓じまいされ、御遺骨は圓宗寺に祀られている。銘は高崎末男氏資料を基とした。

90 狛犬灯燈(一对) 鞍手町中山一五八八 八劍神社

右側火袋正面

獻

左面

弘化三年〔横書き〕

右側台石右面

式日獻燈

永代

大宮司

知吏

台石正面

寄附連名「篠原平治郎」田代治三郎「許斐新平」田代幸右エ門「大長光

庄三郎「森安七右エ門」栗田仁七 〔八行。〕は改行頭。〕

裏面

大宮司従五位下

藤原朝臣善國

左側火袋右面

丙午二月〔横書き〕

正面

燈

左側台石正面

寄附連名「栗田安藏」「栗田源兵衛」「栗田嘉右エ門」「栗田彌一郎」「小長光

右エ門」「田代七治郎

左面

式日獻燈

永代

大宮司

知吏

裏面

宮田村石工

勝木藤太郎

91 灯燈（一对） 鞍手町中山一五八八 八劍神社

右側柱右面

台石右面

石工 宮田村

弘化三年

藤太郎友茂

兵十茂久

正面

台石正面

寄附連名

水流

大口儀作

御神燈

野口百エ門  
赤星善八

小永光儀右エ門

左面

台石左面

小永光仁右エ門

小永光茂吉

午三月吉祥日

安永伊助

安永茂右エ門

田代藤八

武谷惣助

左側柱右面

左側台石右面

寄附連名

栗田助三郎

天保六年

田代五七

栗田甚市

上野善作

正面

台石正面

栗田源右エ門

坂口利七

御神燈

大長光貞助

栗田仁兵衛

栗田藤吉

上野兵助

左面

台石左面

穂波郡

未二月吉祥日

石工 川津村

兵次明次

裏面

大宮司

藤原朝臣善國代

92 灯燈(一对) 鞍手町新北入生 熊野神社

左側右面

〔剥落して読めない。〕

右側正面

弘化三<sup>丙</sup>年重陽

左面

神明燈

裏面

福永孫八

神明燈

裏面

弘化三<sup>丙</sup>年重陽

左面

93 百度石 鞍手町猪倉四九一 貴船神社

右面

弘化口羊三月

正面

田中米三良

石 有吉久吉

階 入江七次良

奉寄進

世 埴生宗右門

話 武谷徳平

人 白石半四良

田中口右門

左面

百度石

雑記 御潮井台と同じ形態をしている。

94 弘法大師像 鞍手町古門 古門公民館横弘法大師堂

台石右面

弘化四未歳

孟秋造立

正面

南 大師遍照

無

左面

柴田

清治

95 石祠(猿田彦社) 鞍手郡八尋二一〇七 十六神社

右面

弘化四丁未春

大宮司

安藤丹波正吉定

裏面

日高伊三郎「田代與時」「郡司嶋伊七」「同姓權藏」「田中口一郎」「舟津嘉工

門「田代利兵衛」「日高□兵衛」「日高右工門」〔九行。「は改行頭。」〕

雑記 昭和六十年十月に補修されている。右面、裏面は旧状を残している。

96 灯燈（一対） 鞍手町中山二五八八 八剣神社

右側柱右面

大宮司従五位下田部能登守藤原朝善國

大宮司従五位下田部河内守藤原朝克春

正面

獻燈

左面

植木村大庄屋

香月勘兵衛則宜

右側台石右面

木月村大庄屋

安本甚五郎善伸

新延村庄屋

仲野源次郎宗完

□□村庄屋

原田幸右衛門幸作

□□□□□□

松尾助衛門為棟

□□村庄屋

船津兵八光通

□□村□□

立野七□興□

宮田村庄屋

藤原光治重之

□分村庄屋

上田継次方郷

左面

世話人

石橋助吉温克

〔空白〕

石工飯塚驛

山本文右工門成次

左側柱正面

獻燈

裏面

嘉永紀元戊申

秋九月吉祥

左側台石正面

木月村庄屋

小川源八義一

下大隈村庄屋

仲江新九郎律明

八尋村庄屋

松尾藤平為蔭

新北村庄屋

藤原長久郎重正

古門村庄屋

添田治兵衛充一

小牧村庄屋

安増友右衛門重家

上木月村庄屋

井上太郎直久

97 水盤 鞍手町永谷 永谷天満宮

奉 嘉永元年

寄 十二月

進 魚屋善右門

98 狛犬(一対) 鞍手町木月一三四九 劍神社

左側右面

嘉永二己酉歲

正月吉祥旦

正面

獻

左面

石工

卜部勸十

正月吉祥日

嘉永二己酉歲

左面

獻

右側正面

裏面

木月村願主

柴田半八政廣

裏面

木月村願主

香月傳藏則廣

99 水盤 鞍手町新北入生 熊野神社

嘉永二酉歲

祭日造

〔空白〕

石田善市

浦部平八

浦部嘉吉

中嶋幸平

100 狛犬(一対) 鞍手町木月一三四九 劍神社

左側正面

右側正面

奉獻〔横書き〕

嘉永二己酉年

霜月吉祥日

裏面

木月村

相葉佐六相則

川口徳助吉時

相葉□□□□

下□□□□

石工 □平

裏面

博多中

相葉□□相定

101 三界萬靈塔 鞍手町大字新延字島 太子堂  
右面

家内安全五穀豊饒

正面

□十方至聖三界萬靈

左面

嘉永二酉七月十六日 嶋中

雑記 たかまん様と呼ばれている。

102 猿彦神 鞍手町新延本村 道端

台石右面

小田甚三郎

同姓忠治

松本惣助

正面

嘉永二年

奉建立

己酉四月吉日

左面

山本重□

同姓弥三郎

平瀬豊□

103 賓頭盧様 鞍手町中山一四〇四 圓清寺  
底部

天下和順日月

清明乃務修礼誌

爲先祖諸精靈及三界萬靈供養

施主惣檀家并萬人講中

世話人後見

保正篠原平治郎重之

組頭栗田甚七宗邦

世話人発起

猿食栗田藤吉

西 栗田甚市

同 添人

新延飯野半右工門

佛工

植木本町村田吉之丞

同所 河邊又介

世話人

同所山田半七

嘉永五壬子十月

於植木真如寺本堂新彫

八日ヨリ五晝夜開眼供養者之

當山十四世随誉上人代

雑記 銘は墨書である。賓頭盧様は、仏道の修行者で、仏法護持を祈る十六羅漢中第一尊者である。

104 高木薬師如来 鞍手町新北高木 薬師堂

輪光支柱前面

筑前福岡住大佛師佐田文造慶直修霞之仕

裏面

嘉永六丑年四月上旬吉日

雑記 原物銘を確認できなかったため、銘は『鞍手歴史図鑑』等によつた。墨書である。

105 石祠 鞍手町古門掛津 太子堂  
右面

梶栗與衛門

嘉永七年

十二月再建

106 石祠(保食神) 鞍手町古門 荒五郎山頂

石祠裏面

文政七年六月□□ 古門村中

大宮司 伊藤魚沖

保正 仲野七平

組頭 遠藤勇八

同 的野四郎次

同 副田直平

同 副田半五郎

安政三年六月修造

保正 副田次九郎

組頭 遠藤伊衛門

同 副田三五郎

同 副田平太郎

同 副田惣吉

世話人筒井□平

雑記 右銘があつた石祠は平成十四年三月にあたらしい祠に建て替へられていて確認できないので、高崎末男氏資料によつた。なお、石祠の傍に旧石祠の一部と思われる整形された平石が転がっており、次の銘が彫られている。

右面

文政七年甲申年六月十六日

正面

再建 古門村中

社人 伊藤常足

保正 中埜元平

組頭 □□□□

同 □田直八

同 添田半五郎

加勢 木月村中

107 石段 鞍手町古門 古物神社

右上石柱正面

奉寄進

左面

安政四年

九月吉辰

左上石柱右面

古門村

正面

添田半五郎

108 石祠 鞍手町新延本村 地藏堂

右面

安政四年<sup>丁</sup> 六月十四日

再建

施主 川波□□

水□□□郎

川波□□郎

左面

施主 川波春□

同 清次

同 想郎

石工

小田忠治

雑記 高崎末男氏資料を参考とした。

109 豊日宮石祠 鞍手町八尋四八九 十六神社

右面

世話人

安政四<sup>丁</sup> 己年

加藤□□

松尾藤九郎

船津積藏

同 伊藏

大宮司

十一月吉且 安藤丹波正吉定

同 主令知定

左面

施主

農長 松尾藤平

組頭 原田武右工門

同 田代庄造

同 許斐真治

裏面

須藤太平「許斐七治」「田代忠治」「須藤源治郎」「同 伊平」「同孫三郎」「許

斐忠右工門」「日高□平」「同 丈右工門」「須藤孫右工門」「許斐称右工門

「同 要平」「加藤嘉平」「□□□□」「田中小右工門」「森 藤三郎

〔十六行。〕は改行頭。〕

110 御潮井台 鞍手町古門一二三七 古物神社

正面

獻

左面

安政五年

六月朔日

上組氏子中

裏面

保正 添田次九郎

組頭 添田正五郎

同 添田半五郎

依藤藤次郎

世 的野九兵衛

話 添田善衛門

人 荒牧忠衛門

柴田信平

111 猿田彦大神 鞍手町八尋(里村) 圓宗寺參道

正面

安政五戊午壬十二月

猿田彦大神

左面

船津嘉助

裏面

七十四才而立之

112 鳥居残片 鞍手町猪倉四九一 貴船神社

右柱

村中

左柱

連老水流

田仲太助  
小南源四良

世 入江□□

白石半四良

土生半三良

田中正三良

話 藤村□□

小南半九郎

百田太四郎

人 小南甚五郎

入江平次良

有吉善四良

小南正次良

□田正藏

柱残片

安政六年未八月

雑記 右柱、左柱ともに上部がない。両者の横に同じ砂岩で造られた鳥居残片がある。柱上部残片を合わせて紹介した。

113 旗柱(一対) 鞍手町古門二二三七 古物神社

右側正面

安政六年 古門村

左側正面

奉寄進 若者中

114 狛犬(一対) 鞍手町中山二五八八 八劍神社

右側上台石右面

中山村保正

篠原平治郎市之

八尋村保正

松尾藤平為□

上新入村保正

香田助右衛門清房

小牧村保正

安増善五郎善章

正面

奉

左面

安政六巳未

八日吉祥

大保正

香月勘兵衛則直

裏面

木月新延兩村保正

大庄屋格

安永甚五郎喜仰

下新入村保正

同格

青木嘉四郎嘉郷

新北村保正

同格

栗田嘉藏宗道

植木村養育方

松尾藤七為棟

室木村保正

船津興八光通

下台石左面

石工 下大隈

占部勘十重賢

左側上台石右面

上木月村保正

香月勘伊則□

白水村保正

香月佐治則賢

同村養育方

松尾直治為任

飯倉村保正

安本専兵衛善則

正面

獻

左面

大宮司

田部能登守藤原朝善國

大宮司

田部河内守藤原朝克春

裏面

竜徳村保正

原田權藏重之

長谷村保正

上田與藏芳久

古門村保正

添田治九郎充住

長力谷村保正

田中貞次朝光

下大隈村保正

仲江伊右衛門律明

115 灯燈(一对) 鞍手町新北 熱田神社

右側柱正面

獻燈

左面

大宮司

睦奥守藤原政明

裏面

八月吉祥日

台石正面

櫻井安次良「櫻井武右エ門」森 金右エ門「篠田甚十」的野重吉「吉田

忠兵衛「櫻井藤平」坂田壽右エ門

〔八行。「は改行頭。」〕

左側柱右面

伊勢講連中

正面

獻燈

裏面

安政六祀歲

台石正面

金河源右エ門「坂田友次良」石田忠右エ門「兼竹重右エ門」渡邊只右エ

門「吉良伊七」田中儀三次「坂田伊三良」〔八行。「は改行頭。」〕

116 灯燈(一对) 鞍手町中山一五八八 八劍神社

右側柱正面

獻燈

左面

安政七年

裏面

大宮司從五位下

田部能登守藤原朝臣善國

台石正面

寄進連名「宮川道伯」篠原長次郎「栗田武藏」水摩武吉「田代九郎次

「武谷伊三次」水摩嘉吉 〔八行。「は改行頭。」〕

左面

水摩善右エ門「栗田善三」秋武又右衛門「上野善市」織田新助「小長光

惣右エ門「赤星彌三郎」小長光宅右エ門 〔八行。「は改行頭。」〕

裏面

織田勘十「栗田正五郎」栗田善助「赤星彗三郎」栗田久右エ門「阿部善

四郎「寄進内世話人」栗田仁三郎 〔八行。「は改行頭。」〕

左側柱右面

庚申三月吉日

正面

獻燈

裏面

一對燈明料

貳百三拾六番字二松尾

田貳畝井壹歩

石台正面

寄進連名「栗田平藏」「栗田彦三郎」「栗田嘉平」「栗田源次郎」「横道市助

「栗田喜右衛門」「上野長平」〔八行。〔は改行頭。〕

左面

水摩卯助「栗田文市」「栗田善十」「許斐佐右工門」「栗田善兵衛」「栗田半七

「栗田傳作」「栗田助吉」〔八行。〔は改行頭。〕

裏面

田代卯三郎「織田嘉三郎」「織田清次郎」「古平孫右工門」「栗田彌十」「栗田

武右工門「寄進内世話人」「栗田半右工門」〔八行。〔は改行頭。〕

117 狛犬(一對) 鞍手町上木月 貴船神社

左側右面

蔓延元年歳次

庚申六月吉辰

右側正面

獻

正面

獻

左面

蔓延元年歳次

庚申六月吉辰

裏面

北村九一郎嘉幸

118 御潮井台 鞍手町古門二二五三(神崎) 神崎神社

右面

寄進人

天保十四甲三月吉日

伊勢参宮同行

正面

獻

左面

蔓延元年霜月□□

大宮司從五位下

阿波守藤原朝臣直江

裏面

遠藤善助「吉田戈八」「白石小七」「梶原弥七」「貞光和七」「添田宇平」「添田

甚作「梶栗宗次郎」「遠藤伊助」「瀧口幾藏」「山本孫次」〔十一行。〔は改行頭。〕

119 若般燈(一對) 鞍手町新延一九二四 教善寺

右側右面

左側右面

蔓延元年

合長井鳴村役

左面

下大隈村石工

卜部勘口久

裏面

〔剥落〕

正面

般若燈

左面

良保□□□□  
□□□□□□

裏面

〔風化で読めず。〕

120 狛犬(一对) 鞍手町古門二二五三(神崎) 神崎神社

右側右面

蔓延元申年

十二月吉日

正面

獻

左面

大宮司從五位下

阿波守藤原朝臣直江

裏面

寄進人

古門村神崎

梶栗弥平

吉田弥生

柴喜藤太□□保

正面

般若燈

左面

庚申十一月日

大宮司從五位下

阿波守藤原朝臣直江

十二月吉日

正面

獻

左面

蔓延元申年

十二月吉日

裏面

寄進人

新延村

倉田半吉喜長

吉田弥生

121 水盤 鞍手町古門二二五三(神崎) 神崎神社

台石右面

蔓延元申年

十二月吉日

正面

獻

左面

梶栗弥平

全 永一

122 劍大明神・八幡大神鳥居 鞍手町古門二二三七 古物神社

右柱

大宮司阿波守從五位下

奉再建鳥居一區 藤原朝臣直江

組頭

添田半五郎秋足

添田清工門

添田宗吉

添田伊三郎

熊井喜三郎

熊井藤三郎

筒井德郎

筒井平十

添田善右工門

添田半吉

筒井安平

吉野弥七郎

吉原新助

吉原兵市

世話人

田中又作

正面額

劍大明神

八幡大神

左柱

萬延二<sup>辛</sup>酉年三月吉日

保正

添田次九郎友任

組頭

添田正五郎

筒井徳七

梶栗与工門

の野四郎次

の野作工門

依藤藤次郎

筒井市作

筒井傳右工門

田中平七郎

井上貞平

石匠岩瀬村

木山戈七

當村氏子中

123 猿田彦大神 鞍手町古門一二三七 古物神社

文久元年

猿田彦大神

西

八月吉日

124 狛犬(二対) 鞍手町古門一二三七 古物神社

右側右面

文久元辛酉年

八月吉日

田中平七郎

正面

獻

裏面

添田半吉敬義「添田忠次郎守道

左側正面

獻

左面

大宮司

阿波守從五位下

藤原朝臣直江

裏面

添田良右衛門信近「添田幸十郎秋里

〔二行。「は改行頭。」

125 狛犬(一对) 鞍手町長谷 八幡神社  
右側正面

獻

左面

大宮司藤原朝政明

裏面

保正

上田與藏芳久

左側正面

獻

左面

文久二<sup>壬</sup>年仲春

裏面

上田弥右エ門芳房

126 狛犬(一对) 鞍手町室木二二〇 六嶽神社

右側右面

大宮司從五位下

安藤加賀守知定

正面

獻

左面

井上氏宗右エ門

裏面

文久二年

船津藤三郎

井上仁平

裏面

伊勢悉連名

石松良平尚定

坂本兵次郎

127 旗柱 鞍手町新延 劍神社横の道

正面

奉寄進 若者中

裏面

文久三年癸亥九月吉日穀□

128 郡境石 鞍手町永谷 猿田峠

一面

長谷村

二面

從是東鞍手郡

雜記 鞍手郡・宗像郡境が猿田峠と交差する付近郡境線上に二本立って  
いた内の一本で、もう一本は139である。当郡境石は二つに折れている。  
これら郡境石間を中往還が通っていた。平成三十年の福岡県道路二十九号  
線拡張工事で旧地形が大きく変わり、本来設置位置は特定できなくなっ  
た。当郡境石は鞍手町歴史民俗博物館に保管されている。

宮田村石工

金子清吉

壬戌三月吉日

129 郡境石 鞍手町永谷 猿田峠

一面

従是西宗像郡

二面

吉留村

雑記 鞍手郡・宗像郡境が猿田峠と交差する付近郡境線上に立っている二本の内の一本で、もう一本は128である。当郡境石も二つに折れている。これら郡境石間を中往還が通っていた。平成三十年の福岡県道二十九号線路拡張工事で旧地形が大きく変わり、本来設置位置は特定できなくなった。当郡境石も鞍手町歴史民俗博物館に保管されている。

130 狛犬台石残片 鞍手町新延一九九八 劍神社

右面

慶應元乙丑口

正面

奉獻〔横書き〕

左面

小田佐次郎重勝

131 水盤 鞍手町中山一五三三 照専寺

右面

施主

當村

小長光政吉

同 苗彦市

〔一行分水道管でかくれて読めず〕

許斐藤八

慶應元乙丑年

秋八月

正面

漱盤〔横書き〕

左面

施主 當村

赤星七郎衛門

宗像郡武丸村

井上庄九郎

當山十三世

現住昶口代

石工 四郎丸村

八江平七

132 狛犬（二対） 鞍手町八尋四八九 十六神社

右側正面

獻

左面

慶應元乙丑年

裏面

當村

西堅彦六芳房

船津伊助高利

西堅庄平正次

右面

神司從五位下

安藤加賀守知定

左側正面

獻

左面

宮田村

石工

金子清吉

裏面

世八人

須藤□□

許□□□

右面

八月吉祥日

雜記 台石の世話人は修復時。

133 狛犬(二対) 鞍手町中山一五八八 八劍神社

左側右面

丑寅鐘吉日

男

栗田安藏宗賢

右側正面

獻

左面

慶應元乙年

大保正格

栗田一郎宗英

裏面

大宮司從五位下

藤原朝臣善國

正面

奉

裏面

宮田村 石工

勝木藤太郎

134 天満神社石祠 鞍手町室木一二〇七 六嶽神社

右面

醫師大村梅軒正臣

保正船津善次郎光忠

組頭船津宗十郎善道

組頭石松善右工門尚定

左面

慶應二<sup>丙</sup>寅年

秋八月二十五日

加賀守藤原知定代

裏面

奉再建

天満宮石殿一字

村中安全

牛馬蕃息

雑記 裏面は修復時の追刻。

135 大乘妙典經一字一石塔 鞍手町長谷五五五 長谷観音

水輪右面

地輪右面

西橋貞右工門

田代兵右工門

當村庄屋

上田與藏

遠賀畑村庄屋

普請方□□所

加藤助右工門

水輪正面

地輪正面

慶應四辰卯月吉日

国家安全

大乘妙典經一字一石

五穀成就

當寺

椋譽上人代

水輪左面

地輪左面

中山村大庄屋

神谷市郎右工門

行保

同村普請方

大庄屋格

栗田市郎

室木村庄屋

舟津善次郎

地輪裏面

當村組頭

上田孫右工門

同

田代兵十

田代與作

西橋芳平

福原孫三郎

雑記 当五輪塔は通常の五輪塔と空輪の形態がことなる。

小竹町篇

1 絹干神社鐘 小竹町新多 絹干神社旧蔵

第一区

大日本國筑前州

鞍手郡粥田庄

勝野郷

田副絹干二所大明神

第二区

御寶前

前法眼宗融所

奉寄進鐘破碎  
無聲尚矣於茲

第三区

住心院主并募縁

郷内信心施主等

同志重而鑄成云

應永廿二年<sup>乙未</sup>林鐘

第四区

沙弥宗性

廿二日南田所

沙弥蓮教

法泉庵主長江雙

宗久謹誌之

〔一行、梵字八字。宝楼閣随心蛇羅尼〕

第四区元銘行間追銘

奉求寄進藝前苧蒲苜島

西光寺者也仍可令二世安樂也

第一区元銘行間追銘

永祿五<sup>壬戌</sup>天卯月日

同嶋住人島末平左衛門盛次

同女施主丁丑歳

雑記 坪井良平著『日本古鐘銘集成』掲載銘を拓本で一部修正し掲載した。『日本古鐘銘集成』には「近畿地方の寺社から供出されて、大阪市泉尾の金属回収会社の集積所に野積みそのまま放置され、溶解所へ送られ

る寸前、終戦となつて残っていた金属製品の中から、坪井清足氏が発見したもの」と書き記している。当初の所有者は筑前州鞍手郡粥田庄勝野郷田副絹干二所大明神の銘から現在の福岡県鞍手郡小竹町新多の絹干神社と見るのが妥当である。

2 日奉月請庚申尊天 小竹町新多字上の石原 百地藏堂

貞享三年丙寅

日奉月請庚申<sup>尊天</sup>

八月吉日

雑記 鞍手郡内で一番古い道祖神である。上半分が折れ紛失しているので、銘は『小竹町史』を参考にした。

3 藏王大明神鳥居 小竹町御徳字井田尻 藏王大明神

石柱

鞍手郡御徳村 吉野五郎七

〔空白〕

吉野伊助

子孫再建 浅原藤作

浅原徳次

〔空白〕

徳永重男

酒井勝

平成七年十月吉日改築御徳一区 神社総代 白石正俊

瓜生昭次郎  
宮野政義

正面額

藏王大明神

左柱

元禄六<sup>癸酉</sup>年九月吉日

(空白)

大正十五年八月十五日修繕御徳区

大宮司従五位下保正香月半十

勝野因幡守藤原朝臣秋成

雑記 改築の際、銘の写し違いがあるか。

4 石階段 小竹町御徳字井田尻 藏王大明神社

右側上柱正面

御徳村

左面

元禄六年

左側上柱右面

九月

正面

南良津

雑記 下部埋まっついていて読めない。

5 謹請猿田彦大神 小竹町御徳 薬師堂

元禄十<sup>丁丑</sup>年

謹請掾田彦大神

十二月十四日

6 奉請庚申尊天 小竹町南良津唐戸 観音堂

右面

願巫座中

□八人

正面

元禄十一年

奉請庚申尊天

正月吉日

7 灯燈(二対) 小竹町大字新多字井ノ浦 絹干神社

右側燈

左側燈

寶永四天亥ノ

絹干大明神 奉寄進

四月吉祥

新多木寸 常日□  
黄良新□衛門

8 水盤 小竹町赤地 大祖神社

享保元年

奉寄進 村中

十一月朔日

9 地藏尊 小竹町大字新多上の石原 百地藏堂  
台石右面

平作

治作

享保四年

喜六

〇三郎

正面

念佛供養

左面

己亥

孫平

二月四日

太市

伊助

裏面

又吉

願主

助六

太三郎

吉藏

10 天満宮鳥居 小竹町勝野字小竹 貴船神社

右柱

奉寄進鳥居一門

正面額

天満宮

左柱

享保八年癸卯歲正月吉旦

11 奉請庚申尊天 小竹町大字新多字井ノ浦 絹干神社

享保十五〇〇年

奉請庚申尊天

六月廿〇日

12 石階段 小竹町新山崎 聖觀音堂

右側上柱正面

元文五年

申十一月吉日

左側上柱正面

奉寄進

13 庚申尊天 小竹町新山崎 須賀神社

寛保二戊年

庚申尊天

十二月吉日

雜記 須賀神社に合祀された道祖神の一つである。



正面額

南良津神社〔改築〕

左柱

寶曆二歲龍次 壬申肯槐夏禎祥日

保正有馬弥助

21 石階段 小竹町赤地字小谷 大祖神社

右側上柱正面

井野浦助治

左側上柱正面

寶曆三癸酉年

霜月□□

22 龜山神社鳥居殘片 小竹町勝野二九七二一 龜山神社

正面額

龜山神社

左柱

寶曆四年歲甲戌仲春穀旦

祠官勝野主水藤原秋尚拜誌

23 龜山神社鳥居 小竹町勝野二九七二一 龜山神社

右柱

昭和四十九年十二月吉日鋳害復旧工事爾依里 宮司勝野秋稔代

古河合名會社□□□□□□

奉納

塩頭目尾□□場天頭

下山田□□場大□

折目尾□□□□□□□□

第二目尾□□□□場夫頭

〔奉納以外、右五行セメントで塗潰されている。〕

鳥居一區 鞍手縣勝野邑産徒中及山崎邑産徒造立

保正

國俊七次郎

正面額

龜山神社

左柱

小竹坑

勝野坑

貴船坑

大石坑

上山ノ谷坑

針金坑

寺ノ谷坑

井浦坑

〔右八行セメントで塗潰されている。〕

祠官勝野主水藤原秋尚拜誌

寶曆四年歲甲戌仲春穀旦

雜記 江戸時代および大正時代行政区画に縣は使われない。宗教的背景による記載例である。

24 灯燈（一对） 小竹町勝野二九七二一 龜山神社  
右側右面

寶曆七丁  
丑 九月廿九日

正面

奉寄進村中

左面

時之保正

石工 笹栗善市

笹栗九助

25 水盤 小竹町新多字上の石原 百地藏堂

奉寄進

寶曆八年

寅六月吉日

若者中

26 灯燈（一对） 小竹町南良津字丸山 奈良津神社

右側

寶曆十庚辰歲

奉願成就村中

四月吉日

左側

牛馬安全村中

27 庚申祭塔 小竹町勝野二九七二一 龜山神社  
右面

寶曆十四天

正面

庚申祭塔

左面

三月吉日

28 庚申祭塔 小竹町勝野二九七二一 龜山神社

右面

明和三天

正面

庚申祭□

左面

正月吉日

29 水盤 小竹町新山崎 須賀神社

右面

□□

林與平

同宗次郎

正面

明和四年

奉寄進

三月吉日



台石正面  
町中

35 灯燈 小竹町勝野二九七二一 亀山神社  
右面

文化四年<sup>丁</sup> □吉日

正面  
奉寄進

左面  
本邑講中

36 石祠 (須賀宮) 小竹町赤地字小谷 大祖神社

右面

奉再造

文化六<sup>巳</sup>

五月良旦

當邑産子中

左面

保正

吹上弥三郎

井之浦

□□文次

裏面

〔剥落して読めない〕

37 灯燈 (二対) 小竹町大字新多字井ノ浦 絹干神社  
右側右面  
左側右面

文化十三歳

奉寄進

正面

正面

奉寄進

石原大 □傳右衛門 □□

左面

國廣晋五郎国重

裏面

文化十三年丙子

38 水盤 小竹町新山崎 聖観音堂

右面

文化十三年

丙子正月吉辰

正面

奉寄進

左面

林幸十「同嘉市」塔野勘十「□平持七」山本□□「同 □□

〔六行。「は改行頭。」〕

39 貴船社鳥居 小竹町新多字向山 貴船神社

右柱

天保二年辛卯秋九月吉辰

保正

國廣武右衛門正信

正面額

貴船社

左柱

梶原弥八

吉永久右衛門

梶原太□次

藤廣□□門

篠寄九八

篠寄亦吉

國廣茂三郎

國廣善次

國廣吉次

國廣幸十

乱□中

梶原□□衛門

梶原武吉

吉良八六

40 庚申尊天 小竹町勝野 小竹地藏尊

本体右面

天保三年

辰九月

正面

庚 尊

申 天

台石正面

村中「浦上甚□」「帆足□伸」「源田兵藤」「原田百平」「山本甚八」「丸田惣吉」  
「山本□八」「□利長吉」「石工□□亦吉」  
「十一行。「は改行頭。」

41 喚鐘 小竹町御徳 正行寺

筑前州鞍手郡

御徳村正行寺智玄

願主同村浅原善助

宝永八<sup>辛</sup>二月廿九日

冶工庄兵衛直次

為 菩提

一円

妙円

天保四<sup>癸</sup>巳

二月六日

鑄直

冶工虎□次兵衛包□

香原氏

□譽順信士

教典妙順信友

□菩提施主

植木村興如寺

□譽上人

□領

冶原勝作

42 狛犬(一対) 小竹町勝野二九七二一 貴船神社  
右側右面

願主石工

高嶋九助勝重

六十七歳作

正面

左側正面

獻

獻

左面

天保四歳

巳夏

當所中

裏面

時之保正

後藤又助

同屋猪八

世話人

綿屋弥四郎

43 狛犬(一対) 小竹町勝野二九七二一 龜山神社

右側上台石正面

獻

左面

農長

後藤又助利勝

石工

高嶋九助勝重

七十二才作

裏面  
若者中〔左人名の上に横書き〕

田代忠□「渡邊与三郎」西本卯吉「太田宅十」國房与市「竹森茂三郎

「笹栗甚助」白土甚二郎「尾上亦七」竹森善助「國房善六」村上涼六

「上田六八」〔十三行。「は改行頭。」

左側上台石右面

竹森□□□郎

□□式□原田久 三

白土□ 八

花田勝右エ門

〔一行空き〕

□長 加藤春 □

原田久 作

國房要 吉

原田平 伊

高取丈 平

正面

獻

左面

世話人〔左人名の上に横書き〕

田代忠三郎「渡邊与三郎」太田宅十「國房与市」白土助三郎「春氏文六

〔六行。「は改行頭。」

裏面

天保九年「戊戌」六月吉辰

〔三行。「は改行頭。」

左側下台石右面

和田九平「國房十平」「宮嶋六七」「田正卯市」「白土□助」「宗廣□吉」「□□助八」「□□□□」「□□□□」「白土利八郎」「國次芳平」「宗廣卯市」「國房仁一朗」  
〔十三行。「は改行頭。」〕

正面

□尾惣作「國正勸六」「野見山善七」「原田平十」「竹森善吉」「國俊与作」「國俊七次郎」「三木」「野見山善七」「尾上甚八」「野見山善五」「野見山德助」「渡邊藤助」「西木助十」「宗廣次八」  
〔十五行。「は改行頭。」〕

左面

竹森□□「山田助作」「田中大右□」「高取甚□」「渡邊惣□」「高取□□」「石上新□」「□□仁□」「田中□」「高取和□」「渡邊惣三郎」「田上□作」  
〔十二行。「は改行頭。」〕

44 猿田彦太神 小竹町赤地字小谷 天満宮

本体右面

嘉永四辛亥歲

正面

猿田彦太神

左面

中秋再興

裏面

此地往昔築堤防河水益□水破損而彌□無息時文化元年  
甲子谷減削堤半減何否雨水連年役傷不少村業拾彼弊依  
願彼此□三十年至是大農長加藤氏以里民之患□訟願是  
放 國雁 御上監之察之嘉永三年庚戌是以□寶按并兩

郡人夫□恐大堤同年□秋洪水至又大破□里民失稼耨之

道旅是□十支谷□藏□之 國命下仁政賜糧米於役夫柏  
中光若仍仇□ □努力而運土泥大堤全成頗固也是偏  
國命□収之恩□也放是□□築堤□生里人助勞之□趣

□□而以欲合保役代人□之堤防之修固希欲莫兌矣

台石正面

里正

吹上彌助

組頭

文右衛門

同役

善助

同役

半四郎

施主

井浦久市

裏面

大保正

加藤仁助嘉敦

普請方

大保正格

杉尾宇藏

同役

古田彦三郎

雑記 当天満宮は東住還の横にある。裏面には文化元年の直方川（遠賀川）の堤防に關することが書かれている。

45 狛犬（一对） 小竹町字井ノ浦 絹干神社  
右側右面

願主

福岡萬町御口

□□□十二茂

新多村□□

□□□□□□

加藤貞嘉□□

左面

奉獻〔横書き〕

左側右面

奉獻〔横書き〕

左面

嘉永六年癸丑

十一月吉日

同村庄屋

貞右衛門

建之

〔一行空白〕

石工

福岡明寄住

廣田正七興保

46 狛犬（一对） 小竹町御徳字井田尻 藏王大明神  
右側正面

獻

左面

安政二歳次乙卯

中秋吉祥日

裏面

武内九平昭重

左側右面

大宮司従五位下

安藝守藤原朝臣

秋愛

正面

獻

左面

石工

竹内幸四郎

裏面

武谷大治郎廣章

須賀神社鳥居

小竹町新山崎

須賀神社

奥平長平 林 甚吉

全 兵三 全 権藏

林 武吉 奥平用助

大宮司従五位下安藝藤原朝臣秋愛

勝永清藏 山本角藏

全清次郎 塔楚喜三郎

塔楚勘一 林清十

西本吉助 全傳七

全用作 塔楚喜四郎

林助七 西本新三

全甚口 全伊七

林貞次郎

全口口助

正面額

須賀神社

左柱

安政二年乙卯九月吉日

林與兵衛重至  
林惣次郎

石工

武内幸四郎

昭和五十九年十一月再建

穎田町石匠大山弥太郎

48 石祠(罔象女命)

小竹町勝野 小竹地蔵尊

本体右面

大宮司

従五位下藤原勝口口口

左面

安政四年巳三月吉辰

口長福田外七畏口

裏面

大保正金生村

石井興三郎寛保

普請方 榎木喜藤太

金丸村長 国廣貞右衛門

同 新多村長 原田兵太郎

口口村 正 加藤清三郎

台石裏面

戸頭

兵三郎

同 千蔵

同 忠三郎

同 善五郎

同 仁次郎

49 狛犬(一對) 小竹町赤地字小谷 大祖神社

右側上台石正面

獻

左面

文久三年癸

大宮司従五位下

勝野安藝守藤原□□又七

下台石正面

〔人名約十名あれど読めず〕

左側上台石右面

亥六月吉辰

保正

吹上和三郎

山ノ口

川原久兵郎

正面

獻

下台石正面

〔人名約十名あれど読めず〕

50 御潮井台 小竹町新多字井ノ浦 絹干神社

右面

元治元年

甲子中春吉辰

正面

獻

左面

大宮司從五位下

安藝守藤原朝臣秋愛

裏面

養育方兼

普請方

大庄屋格

國廣貞右工門俊行

51 奉請庚申 小竹町南良浦 巖島神社入口

右面

元治元年

正面

奉請庚申

左面

十二月吉日

台石正面

世話人「野見山□□」「花田□□」「野見山□□」

〔四行。「は改行頭。」〕

52 水盤 小竹町勝野 貴船神社

正面

獻

裏面

慶応元年

丑初冬

大庄屋格

原田兵太郎重勝

53 狛犬(二対) 小竹町南良津字丸山 奈良津神社

右側石面 左側石面

石工 大宮司從五位下

直方町 勝野安藝守

山本角工門 秋愛

同 源 治

正面 正面 獻

奉 獻

左面

慶應三丁卯

三月

裏面 裏面

組頭 飯野助七 施主 藤野碩山

飯野助七 正藏

組頭 山本喜三郎

世 話 人

飯野助七

人

54 新山崎聖観音堂鑿口 小竹町新山崎 聖観音堂

正面

慶応三年丁卯七月吉日 新山崎

奉納徳力山神宮寺

裏面

世話人

塔野仁一

〔右二行中央。〕

林与平「奥平兵三」林甚平「林武吉」塔野□□郎「林茂右工門」林清八「林幸右工門」林正次郎「山本吉助」西本伊七「西本新三」山本角藏「西本用作」林藤十「林傳七」奥平徳三「林清右工門」林勘市「勝永□次郎」勝永長平「勝永□藏」秋宗次郎

〔二十三行。「は改行頭。縁に時計回。」

55 郡境石 小竹町勝野 新堤踏切横

右面

勝野村

正面

從是北鞍手郡

雑記 穂波鞍手両郡境と東往還が交差する道端にあり。